

2026年1月～4月/

ご講師の  
先生方

1/11 岡本信之師



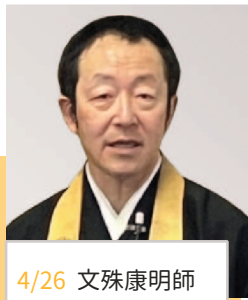
2/22 南條了瑛師



3/8 内田正祥師



4/12 上野隆平師



4/26 文殊康明師



1/25 那須良彦師



2/8 金安一樹師



3/22 文殊四郎琢磨師

2026年も早いもので5月となりました。  
今年も誓願寺の法座には、たくさんのご講師の先生方にお越しいただいています。  
引き続き、毎月第2・第4日曜日の法座には、全国各地から先生をお招きする予定です。  
参加は無料ですので、ぜひお気軽にお越しください。

しんらん同人

No.592

5・6  
月号

浄土真宗本願寺派 誓願寺  
〒171-0052 東京都豊島区南長崎1-3-8  
【電話】03-3950-7828  
【ホームページ】<http://www.seiganji-tokyo.jp/>

われもひかりのうちにあり

誓願寺住職 古賀尚之

宗祖降誕会とは、親鸞聖人のご誕生をお祝いする法要です。親鸞聖人は平安時代の終わり、一一七三年に京都・日野の里でご誕生になりました。

親鸞聖人がご往生されてから、ご遺徳を讃える報恩講は盛んにおこなわれましたが、ご誕生をお祝いするということはありませんでした。当時の日本では、誕生日を祝うということが、今日ほどなじみの深い習慣ではなかったためです。

それが江戸時代の後期に聖人のご誕生を顕彰し、有範堂（日野誕生院）が建立され、その後、明治時代になって西本願寺で降誕会が勤められ全国に広まったものです。

誓願寺では五月二十四日午後一時より「永代経法要」と併せてお勤め致します。お誘いあわせの上、お参りください。

## 濁れる世に 濁れるわれ

濁世・混迷と不安の世を何とか清らかにしたい、安らかにしたいと願うことは大切なことでありましょう。

しかし自分自身もこの濁りの中に居り、更に自分自身が濁っていることに気づかねばなりません。されば世の濁りを悲しむならば、まず自らの濁りを知り、濁れる自分をどうしたらよいか、まず考えねばならぬことではないでしょうか。

親鸞聖人が「世の中安穩なれ、仏法ひろまれ」と願われたところは、如来の本願を信ずる身となられた、そこから出たお気持ちであります。「まず自身の往生を願う」ことであります。仏智を仰いで、その光に照らし出された自己、それは全く煩惱具足の凡夫であり、自ら罪業を重ねていながらそれを気付かなかった私であります。

そしてまた、いつまでも生き永らえることの出来ない私であります。遅かれ早かれこの世界に別れを告げていかねばならない私であります。どうかかなりたいともがいても、あせつても、どうしようもありません。人間は人間であるより仕方のない、この人間の迷いから抜け出ることのできない私を哀れみたまいて、「必ず救う」との願いがおこされ、この迷い苦しむ私を救わんがために、ご苦勞ましました如来のご恩はいかばかり

か計り知れないのであります。

如来の願いがこの私に届けられるためには、また数えきれないほどの多くの人びとや、万物の働きがあります。祖先のおかげ、世の人々のおかげ自然のめぐみの中に生かされて来たからこそ、如来の本願に遇わせていただいたのであります。

如来の本願を信ずることによって、如来の光に包みとられ、真実の浄土に生まれ行く身と定められるのであります。

救われるとは、如来のお慈悲の中に、いま、この私が生かされていることであり、命終れば浄土に生まれさせて頂くということでもあります。

往生とは、生まれ行くことですが、浄土に生まれゆくことは、今救われているからであります。

悟りの身となるべき種は一つもない、否地獄よりほかに行くべき所のない私が、即座に浄土の人となることが出来るということは、全く如来の本願力ひとつの働きであります。

この広大のご恩を思う時、世の濁りにいきどうり悲しむのではなく、この濁れる世界を明るく、安らかに生き抜く道は、如来の本願を信じ念仏申すほかにはないということ、語り合って広大のご恩に報いるために全力をあげてつくし、進むことであります。

合掌



誓願寺初代住職  
故岡本泰雄

副住職

古賀明徳

## 「降誕会」におもいうこと



先日「私ももう〇〇歳になってしまつて、だんだんと体が言うことを聞かなくなつてきた。誕生日も嬉しいと思わなくなつてきたわ。」とおっしゃられる方がいらつしやいました。私ももうすぐ五十歳代。いつまでも若い、健康だと思つていても叶わないこともあります。

仏教では、この世における人間の苦しみを四苦八苦、その中の代表的な苦しみを、生老病死と説かれます。老いの苦しみ、誰もが必ず老いていかなければならない。思い通りにならない点から説かれています。

一方で、歳を重ねるといふことは、つらいことと受け取るよりは、たくさんのお会いやご縁に遇わせていただける大事なことだと思えば、喜ばしいこととして受け取っていくことも出来ます。

仏教は「縁起の教え・縁起の法」と言われます。この縁起は、やさしく言うのご縁・お蔭さまという意味です。改めて自分が頂いてきた、そしてこれからの人生で頂くご縁やお蔭

さま一つ一つに感謝していきましようとお教えていただけます。

お誕生日、仏教をお説きになつたお釈迦様のお誕生日は四月八日といわれます。浄土真宗を開かれた親鸞聖人のお誕生日は五月二十一日。それぞれを「降誕会」としてお勤めが行われます。ご自分のお誕生日も沢山の方々に感謝しながら迎えていただきたいと思ひます。

合掌



